

指導と評価の一体化で 令和の日本型学校教育を実現する

2024年7月22日（月）
大阪大谷大学 今宮 信吾

これからの学校教育について思うこと
令和の日本型学校教育

読解力向上、情報活用能力育成

教科、学年を超えた共通の子ども像を形成していくことが必要となる。

「何を読み解くのか」（What）

「どのように活用させるのか」（How）

「何のために使うのか」（For what）

義務教育で身につける力

1 言語能力

2 情報活用能力

3 課題・問題解決能力

三つの壁

学校の壁

校種の壁

教科の壁

つなぐこと

ひと・もの・こと

・子どもと子ども 子どもと先生 子どもと地域の人

・子どもと地域

・子どもと生き物

・子どもと服装（文化）

・子どもと資料（ことば）

・子どもと課題

・教科と教科

→総合的な学習の時間、教科横断的学習の素材として

話し合うことの意味

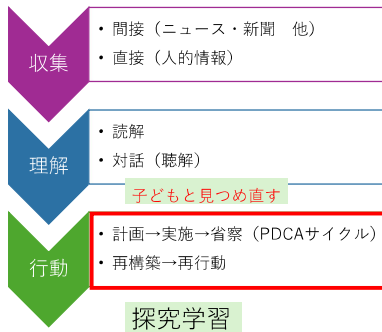
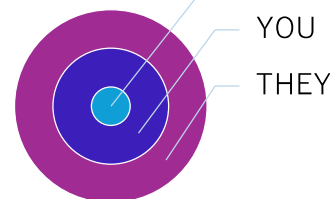
教師の発話

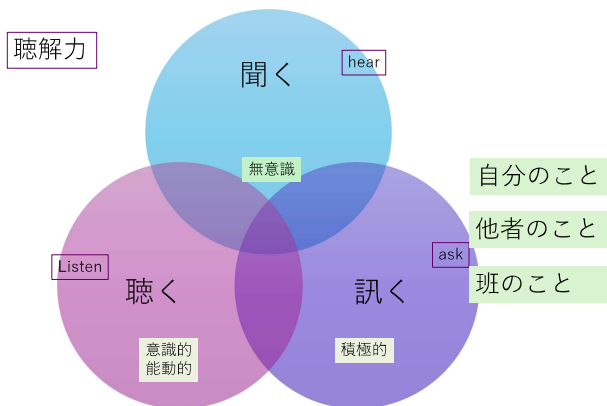
学習が苦手な子

教師の観察ができない

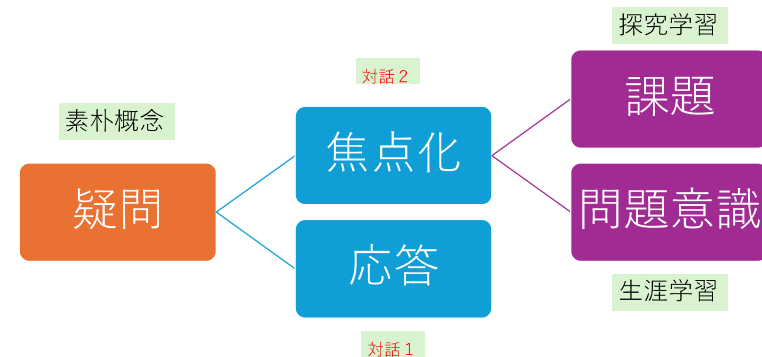
子どもの学習時間が保障できない

情報活用の方法





深い学びのために



タブレット活用の目的

図書とタブレットハイブリッド活用

・情報収集の速さ、正確さ、量的、質的

図書の価値づけ

・信用度 手軽さ ブラウジング

タブレット活用の意味づけ

・簡便さ、比較対象の量、即時性



タブレットで文字を入力する博仁さん=いずれも敦子さん提供

重度自閉症の少年が書いた作文が、北九州市で開催された二つの文学賞・コンクールに入選した。書いたのは神奈川県内の特別支援学校 高等部に通う内田博仁（はくと）さん（15）。言葉は話せないが、タブレットで文章をつづる。

幼いころは知能検査で正確な答えを指せなかった。

心の中にことばはある

朝日新聞 夕刊 2024年5月29日



ことばの多様性

フィードバックのスキル向上

ふりかえりとループリッ

単元名で子どもが見える

教科書の教材は料理で言うところの材料です。その材料でどんな学びを作ろうとしているのかが見えます。

→カリキュラム・マネジメントによる独自の授業構想

「貴族のくらし」

（平安時代の人になってそのくらしを体験する）

家庭科、国語科

評価規準で授業が見える

単元目標は、学習指導要領から抜き出した指導事項です。

その指導事項をどのように評価するのか、その評価のために何をすることがわかるのが評価規準です。

今回だと、期待する子ども像です

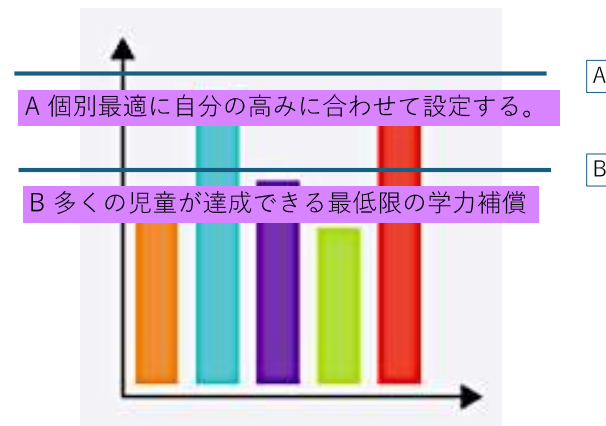
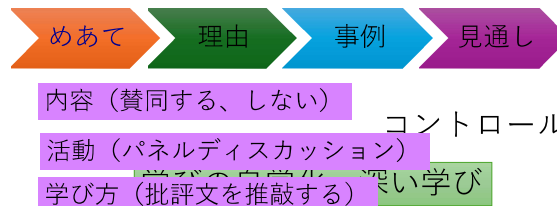
期待する子どもの姿を想定する

- ・華やかさを実感する姿
- ・国風文化が生まれた理由づけを自分で行う姿
- ・読み手を意識してまとめる姿
- ・ことばを選んで二文で表現している姿
- ・くらしを明らかにするために友達と議論する姿
- ・今の自分のくらしと比較しながら考える姿

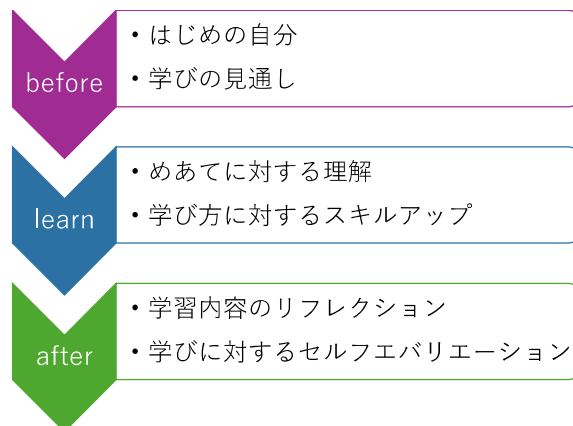
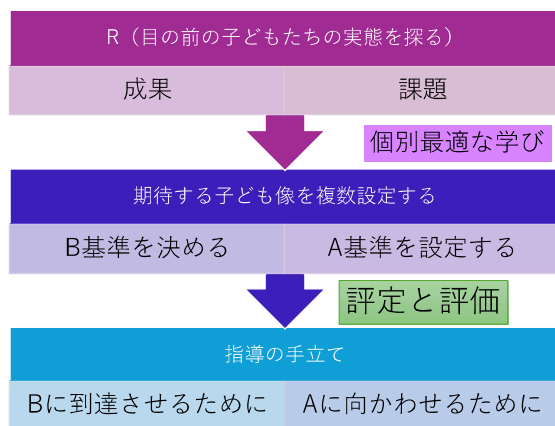
ふりかえり

メタ認知

モニタリング



-39-



第4期 教育振興基本計画

誰一人取り残されない学び 豊かな心の育成

グローバル社会における人材育成

持続可能な社会の創り手の育成

教師のウェルビーイングの向上

日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上

主体的に社会の形成に参画する
態度の育成・規範意識の醸成

主権者教育

診断書⇄ルーブリック

できる子へのアセスメント

個別最適

協働的

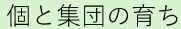
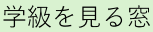
My GoleとToday'Gole

個別最適な学びで変わることに

- 板書の量と質
- 机間指導の重要性
- 教師の発話の量
- 教師の関わり方（ファシリテーター）
- 家庭学習（個別最適への対応）
- 授業の導入（学びに向かう力）
- 音読の効果

-40-

かしこさ」のとらえの変化
「intelligence」「wisdom」「wise」
「smart」「clever」「sharp」など英語で
様々な側面があるが、日本の学校教育で
「全国学力・学習状況調査」に象徴され
よう知識の量的側面しか注目されない
知力」「学力」「IQ」「EQ」「知性」
感性」などあらゆる物差しで「かしこ
さ」とらえていきたい。そのための教育
構想したい。

[illegible]